

ソメイヨシノの桜前線



正門の桜 2010.4.8

毎年、入学式の頃になると決まって咲くソメイヨシノ。この時期、日本列島は3月下旬の高知付近から始まり、5月中旬の北海道にかけて、桜前線が北上する。今年の開花日（宇都宮）は**4月2日**（平年値より1日遅い）なので、ほぼ平年並みである。

ところで、なぜ毎年、開花日の前線ができたり、開花日の予想ができるのであろうか。日本には300種以上の桜があるといわれているが、日本の桜の木の7～8割を占め、開花の観測対象となっている**ソメイヨシノ**という品種に、その秘密が隠されている。

実は、ソメイヨシノは野生種ではなく、江戸時代に染井村（現在の東京都豊島区内）の造園師や植木職人達によってエドヒガンとオオシマザクラから誕生したと考えられている。また、その性質を維持するため、通常の交配ではなく、親木から接ぎ木などで増やされてきた。つまり、日本にある全てのソメイヨシノは、もともとは一本のソメイヨシノの親木を起源としており、遺伝子が全く同じ**クローン植物**なのである。

ソメイヨシノは、前年の夏頃に翌春咲く花のもととなる花芽（かが）が形成され、そのまま休眠状態に入る。秋から冬にかけて5℃前後の低温にある一定期間さらされると休眠状態から覚め（『休眠打破』と呼ばれる）、その後の気温の積算（積み重ね）等により開花を迎える。ソメイヨシノは**遺伝的な多様性が全く無い**ので、気温の積算値が一定の基準を超えたところから順番に開花することにより、きれいな前線となるのである。

日本人がとりわけ愛する桜。そこには江戸時代の職人たちによる**クローン技術**が息づいているのである。



校庭の桜 2010.4.8